

美術科学習指導案

尾道市立長江中学校

指導者 小田 恭子

- 1 日 時 令和3年12月8日(水) 5時限目
- 2 場 所 美術教室
- 3 学年・学級 2年2組(男子17名, 女子14名 計31名),
自閉症・情緒障害特別支援学級(ひまわり学級 女子1名)
- 4 題 材 名 あれ?どうなっているの ～身近な場所を異空間に変えよう～
- 5 題材について

本題材は, 中学校学習指導要領(美術)の次の内容を受けて設定している。

A 表現

(1) 表現の活動を通して, 次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に, 絵や彫刻などに表現する活動を通して, 発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと, 夢, 想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し, 単純化や省略, 強調, 材料の組合せなどを考え, 創造的な構成を工夫し, 心豊かに表現する構想を練ること。

(2) 表現の活動を通して, 次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。

ア 発想や構想をしたことなどを基に, 表現する活動を通して, 技能に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

(イ) 材料や用具の特性を生かし, 意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。

(イ) 材料や用具, 表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら, 見通しをもって表すこと。

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して, 次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して, 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 造形的なよさや美しさを感じ取り, 作者の心情や表現意図と創造的な工夫などについて考えるなどして, 美意識を高め, 見方や感じ方を深めること。

[共通事項]

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩, 材料, 光などの性質や, それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に, 全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

(1) 題 材 観

本題材は, トリックアートの制作を主としている。トリックアートとは, 目の錯覚を利用して, 平面なのに立体的に見えたり, 見る角度によって見え方が異なったりするなどの仕掛けを施した視覚芸術である。本題材で制作する3Dトリックアートは, 紙などに3次的に表したモチーフを一定の方向から見ることにより, モチーフが立体的に飛び出して見えたりくぼんで見えたりすることを楽しむものである。

3Dトリックアートは, 生徒の身近である駅のサインや自転車の駐車違反ブロック等に使われているため, 視覚芸術の手法が日常生活の中に生かされていることを実感をもって理解することができる。

また, 動画サイトで3Dトリックアートの作成方法が取り上げられたり, 広告に利用されたりするなど, 近年メディアで話題となることも多いため, 生徒が興味関心をもって題材に取り組み, 自身の表現を創意工夫して主題を追求できる。更に, 3Dトリックアートの制作では, 見る人の視点を常に考え表

現の構想を練ったり表現したりする必要があるため、表現の方法を理解し効果的な使い方を生徒それぞれの主題に合わせて考えることができる題材である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、1年生では絵画やデザインの基礎的な知識・技能を学んでいる。そして、2年生の一学期から二学期前半にかけては「遠近法」について学習し、既習の表現方法を用いて、奥行きを感じさせる構成を題材に作品制作を行った。その中で、形の描き方や色の塗り方、構図の取り方、描画材の使い方によって作品に様々な視覚的効果が与えられることを理解している。

「遠近法」の題材終了後にアンケートを行ったところ、次の結果が示された。

質問項目	肯定的回答 (本学級)	肯定的回答 (学年)
① 遠近感の表し方について、知識や技能が身に付いた。	96.3%	96.4%
② 遠近法の学習で身に付いたことを作品制作に生かした。	92.6%	90.9%
③ 完成した作品の出来栄に満足している。	77.7%	72.8%

質問項目①②の結果より、本学級のほとんどの生徒は学んだ知識や技能が身に付き、その知識や技能を活用して作品制作に取り組めたと自覚していた。しかし、質問項目③「作品の出来栄に満足している」生徒は、77.7%と多いが、主題を生み出し、創出した主題から構想を練ることが難しかったり、表現の方法を理解していても効果的な使い方が分からなかったりといった、作品の完成イメージを想起させるのに必要な、鑑賞者の立場からの視点での制作姿勢が十分でなかった点に課題がある。

以上のことから、本学級の生徒に、自分が表したいことを基に主題を生み出して作品の発想や構想を練る思考力と、作品の意図に応じて効果的に表現する力、鑑賞者の視点をもって作品を評価する力を身に付ける必要があると考える。

(3) 指導観

題材の導入では、「ルビンの壺」に代表される「図地反転図形」や、車の減速効果を狙った「立体路面標示（イメージハンプ）」、「アナモルフォーシス」を用いたホルバインの「大使たち」などを紹介し、生徒にトリックアートの面白さや表現の幅広さを感じさせる。

制作に入る前に、あえて形が不自然に見える「厚みの線が平行になっているモチーフ」の見本を作図し、Chrome Bookで撮影させる。「厚みの線が平行になっているモチーフ」の撮影画像を見ながら、作画上の気付きや自然な立体に見せるにはどのような工夫をすればよいか、意見を交流させる。その後、撮影した時に形が自然に見える「厚みがすぼまっているモチーフ」を作図させることで、3Dトリックアートの作り方を体感的に学ばせたい。また、「厚みがすぼまっているモチーフ」の作図方法は、既習内容である「一点透視図法」の作図方法が活用できるため、生徒たちの作図への理解も早いと考える。これらの活動を通して、生徒に3Dトリックアートの面白さを味わわせ、作品制作への意欲喚起につなげるとともに、制作の後の作品鑑賞への意識付けとする。

作品の構想を練る際には、3Dトリックアートの「モチーフが浮かび上がる仕掛け」と「地面が凹んで見える仕掛け」の作品のパターンを示すことで、具体的な作品のイメージをもたせて構想を練りやすくする。また、作品をどこに展示して、どんな人に見てほしいか、どんな反応をしてほしいかをワークシートに記述させることを通して、作品の主題や意図を明確にしてモチーフや効果的な表現方法について考えることができるようにする。

形を描画する際には、作業の途中途中でChrome Bookでの撮影を行わせ、立体的に見える形に描けているかを確認させる。着色の工程では、鉛筆での濃淡の付け方や水彩絵の具（ポスターカラー）を使っ

た水彩技法などについて触れ、仕掛けのパターンごとの参考作品を示すことで、生徒が作品の主題や意図に合う表現を選んで着色できるように指導する。

鑑賞の活動では、Chrome Book で撮影した作品と実際の作品をそれぞれ見比べて生徒がお互いに作品から感じたことや考えたことを伝え合うことで、生活を楽しくする美術作品のよさを味わわせたり、お互いの作品の工夫に気付かせたりする。

6 題材の目標

(1) 形や色、材料などが感情にもたらす効果や、目の錯覚による造形的な特徴などを基に、錯視作品のおもしろさや驚きを全体のイメージで捉えることを理解し、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。

【知識及び技能】

(2) 作品を見る人の驚きを考えることで主題を生み出し、形や色、材料の組み合わせで作品のトリックを考えたり構成を工夫したりするなどして構想を練ったり、トリックを使った作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、面白さや意外性を生み出す表現の工夫について考えるなどして見方や感じ方を深めたりする。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 美術の創造活動の喜びを味わい、おもしろさや意外性を生み出す表現の工夫を感じ取ったり、形や色のトリックを使って工夫しながら作品に表したりする活動に主体的に取り組む態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

本校で育成したい資質・能力のうち、本題材で特に育成を目指すのは、「思考力・表現力」、「主体的に学ぶ力」である。

7 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知形や色彩、材料、光などの性質が感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技明暗の付け方などの技法や、鉛筆などの描画材の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。</p>	<p>発トリックアートを見て感じ取ったことや見る人の驚きを想像しながら考えたことなどを基に主題を生み出し、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、主題や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表美術の創造活動の喜びを味わい主体的に感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品や美術文化などの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

8 指導と評価の計画（全6時間）本時2/6

次数	○学習内容 ・学習活動 【時数】	評 価			
		知・技	思	態	評価規準（評価方法）【観点】
第一 次	<p>○トリックアートについて知る。 ・図地反転図形やアナモルフォーシスが使われている作品を鑑賞し、トリックアートへの理解を深める。</p> <p>○トリックアートの仕組みを知る。 ・「厚みの線が平行になっているモチーフ（参考資料①）」を作図し、立体的に見える角度を探して Chrome Book で撮影する。 ・撮影画像を見て、作画上の気付きや自然な立体に見せるための工夫について交流する。 ・「厚みがすぼまっているモチーフ（参考資料②）」を作図・撮影をし、どのような見え方になっているか確認する。</p> <p>○作品のモチーフを考える。 ・3Dトリックアートの「モチーフが浮かび上がる仕掛け」と「地面が凹んで見える仕掛け」を理解して、思いつくモチーフのアイデアを出す。 【1時間】</p>	◎		○	<p>・形や色彩がもたらす効果を基にトリックアートのもつ造形的なよさを理解している。（行動観察、ワークシート）【知識】</p> <p>・主体的にトリックアートの効果やトリックアートを全体のイメージで捉えようとしている。（活動の様子、ワークシート）【態鑑】</p>
第二 次	<p>○作品の主題を考える。 ・描画材や表現方法について確認する。 ・作品の主題や意図をワークシートに記入する。</p> <p>○作品のスケッチを描く。 ・前時に考えたモチーフのアイデアを基にして作品にするアイデア決定し、仕掛けを考えながらスケッチを描く。 ・Chrome Book を使って描画に必要な資料を探す。</p> <p>○グループでスケッチを交流し、交流で気付いたことを基に、さらにアイデアを練りながらスケッチを進める。 ◆本時 【1時間】</p>		◎	○	<p>・見る人がどのように感じるかを想像しながら考えたことなどを基に主題を生み出し、トリックアートのモチーフを考えている。（活動の様子、ワークシート）【発】</p> <p>・楽しく発想や構想の活動に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージを捉えることを理解しようとし、生み出した主題をよりよく表すために心豊かに構想しようとしている。（活動の様子）【態表】</p>
第三 次	<p>○3Dトリックアートを描く。 ・作品の描画と着色をする。 ・Chrome Book で作品の撮影を行い、見え方や出来映えを確認する。 ・作品を修正する。</p> <p>○完成した作品の撮影をする。 ・Chrome Book で作品を撮影し、撮った画像を Google Classroom に提出する。 【3時間】</p>	◎	◎	◎	<p>・明暗の付け方などの技法や、鉛筆などの描画材の特性を生かしながら、トリックアートの描画と着色を行っている。（行動観察、ワークシート、作品）【知識・技能】</p> <p>・主題や意図に合わせ、材料の組合せなどを考えて構成や表現方法等の表現の構想を練っている。（活動の様子、ワークシート、作品）【発】</p> <p>・楽しく制作に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージを捉えることを理解しようとし、意図に応じて工夫して表そうとしている。（活動の様子、ワークシート）【態表】</p>

第 四 次	○作品を鑑賞する。 ・お互いの作品を鑑賞し、思ったことや感じたことをワークシートに記述する。 【1時間】	◎	◎	・作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の主題や表現の意図と工夫点を関連付けながら考えて見方や感じ方を広げている。(活動の様子, ワークシート) 【鑑】 ・楽しく作品を鑑賞し、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の表現の意図と工夫などについて見つけようとしたりしている。(行動観察, ワークシート) 【態鑑】
-------------	---	---	---	--

9 本時の展開

(1) 本時の目標

展示場所や見る人のことを踏まえて自分の作品の主題とその表現意図を考え、それを基にしてトリックアートの構想を練ることができる。

(2) 本時の準備物

- ・ワークシート
- ・タブレット「Chrome Book」
- ・参考作品

(3) 本時の主体的な学びを促す手立て

ワークシートを活用して、作品の主題や意図とモチーフの関連性を明確にさせていく場面。

【見所】学習活動5, 6

(4) 本時の学習展開

	学習活動	○指導上の留意点 ◆努力を要する生徒への支援	☆評価規準(評価方法)
導 入	1 前時の学習を確認する。 2 本時の目標を確認する。	○前時で描いたアイデアスケッチの中から、よいと思うアイデアを選んでスケッチすることを伝える。 ○学習目標を示す。	
主題やその表現意図を踏まえて3Dトリックアートの構想を練ることができる。			
展 開	3 表現方法について確認する。 4 作品の主題とその表現意図をワークシートに記入する。	○ICTを用いて、既習内容である鉛筆や水彩絵の具(ポスターカラー)の表現の仕方を提示する。 ○作品の主題を明確にするために、展示場所や見せたい対象(人)などをワークシートに記入させる。 ◆記入できない箇所は空欄にしておき、モチーフを決める活動の中で考えをまとめていけばよいことを伝える。	☆楽しく発想や構想の活動に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージを捉えることを理解しようとし、生み出した主題をよりよく表すために心豊かに構想しようとしている。(活動の様子)

		【主体的に学習に取り組む態度】
	<p>〈ワークシート〉</p> <p>[展示場所] で [見る人] が [感じ方] トリックアートにする。</p> <p>[モチーフ] を [描画材] で [描き方] 描いて [見せ方] に見せたい。</p> <p>〈予想される生徒の記述例1〉</p> <p>[学校の廊下] で [他の生徒] が [面白いと思う] トリックアートにする。</p> <p>[下へ降りる階段] を [鉛筆] で [細かく明暗を付けて] 描いて [だんだん下に降りていくよう] に見せたい。</p> <p>〈予想される生徒の記述例2〉</p> <p>[家の玄関] で [お客さん] が [見てびっくりする] トリックアートにする。</p> <p>[地球] を [水彩絵の具] で [写真を見ながら写実的に] 描いて [空中に浮かんでいるよう] に見せたい。</p>	
<p>5 主題や表現意図に合うモチーフを考え、スケッチをする。</p> <p>6 スケッチを基にグループで交流する。</p>	<p>○前時で出したモチーフのアイデアの中から、自分が見る人に感じさせたいことと合うものを選ばせる。必要なら新たなアイデアを考えたり、Chrome Bookで資料を探したりしてもよいことを伝える。</p> <p>◆ワークシートに記述した作品の主題の中で一番重要だと思っていることを基にモチーフを選ぶよう伝える。</p> <p>○モチーフが作品の主題や表現意図に合っているかをお互いに確認させる。</p>	<p>☆見る人がどのように感じるかを想像しながら考えたことなどを基に主題を生み出し、トリックアートのモチーフを考えている。(活動の様子、ワークシート)</p>
<p>まとめ</p> <p>7 次回の学習内容の確認と、本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>○モチーフを決定した思考の流れを振り返りに記述させる。</p>	

(5) 板書計画

〈題材〉 あれ?どうなってるの
 ~身近な場所を異空間に変えよう~

〈目標〉 主題やその表現意図を踏まえて3Dトリックアートの構想を練ることができる。



○ワークシートに作品の意図を記入しよう。

[展示場所] で [見る人] が [感じ方] トリックアートにする。
 [モチーフ] を [描画材] で [描き方] 描く。

○作品の意図に合った表現方法を考えてみよう。

〈浮いて見えるパターン〉

鉛筆で表現 絵の具で表現

参考作品

参考作品

〈凹んで見えるパターン〉

鉛筆で表現 絵の具で表現

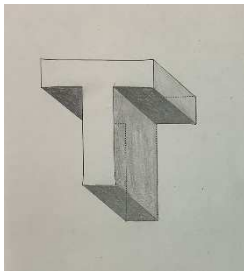
参考作品

参考作品

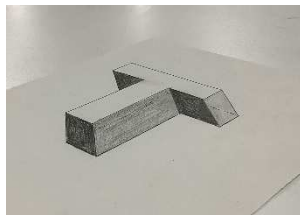
参考資料

①厚みの線が平行になっているモチーフ

(真上から撮影)

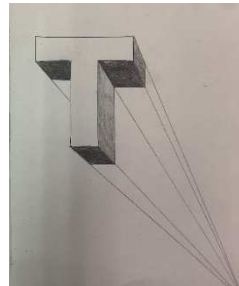


(斜め上の角度から撮影)

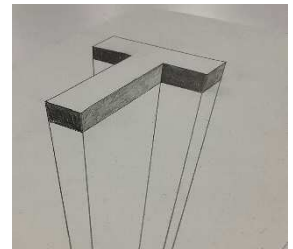


②厚みがずぼまっているモチーフ

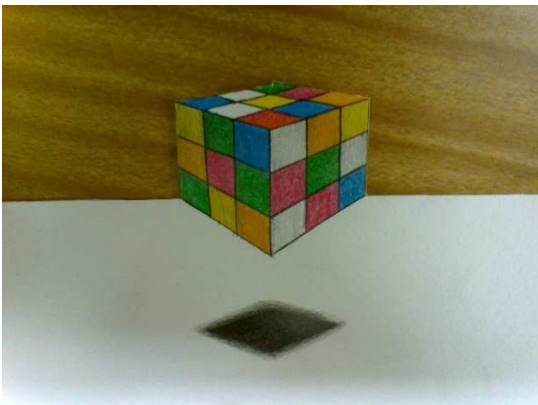
(真上から撮影)



(斜め上の角度から撮影)



③生徒作品 1



④生徒作品 2

